

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成30年9月20日(2018.9.20)

【公表番号】特表2017-532632(P2017-532632A)

【公表日】平成29年11月2日(2017.11.2)

【年通号数】公開・登録公報2017-042

【出願番号】特願2017-507732(P2017-507732)

【国際特許分類】

G 0 6 F 3/041 (2006.01)

C 0 9 J 5/06 (2006.01)

C 0 9 J 175/06 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 3/041 6 6 2

C 0 9 J 5/06

C 0 9 J 175/06

G 0 6 F 3/041 4 9 5

【誤訳訂正書】

【提出日】平成30年8月7日(2018.8.7)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

電子構成部品と、

第 1 基材と、

第 2 基材と、

ポリウレタンプレポリマーから誘導された、硬化した湿気硬化型ホットメルト接着剤組成物と

を含む電子装置であって、

前記第 1 基材は、前記接着剤組成物により前記第 2 基材に結合され、

前記硬化した接着剤組成物は、

約 30 分間にわたり少なくとも 60 から 100 以下までの温度で前記装置を調整した後、前記第 1 基材と前記第 2 基材の少なくとも 1 つから完全に除去可能であり、

少なくとも 3 M P a の信頼性破断応力を示す、

電子装置。

【請求項 2】

前記ポリウレタンプレポリマーは、

40 以上の融点、および、少なくとも 5500 g / m o l から約 20,000 g / m o l までの数平均分子量を有する第 1 結晶性ポリエステルポリオールと、

40 以上の融点を有する第 2 結晶性ポリエステルポリオールであって、5500 g / m o l 未満の数平均分子量を有し、かつ、ジオールとポリカルボン酸から誘導された結晶性ポリエステルポリオール、および、500 g / m o l から約 50,000 g / m o l までの数平均分子量を有するポリカプロラクトンポリオールからなる群から選択される第 2 結晶性ポリエステルポリオールと、

ポリイソシアネートと

の反応生成物を含む、請求項 1 に記載の電子装置。

【請求項 3】

前記ポリウレタンプレポリマーは、

40 以上の融点、および、少なくとも 5500 g/mol から約 20,000 g/mol までの数平均分子量を有する第 1 結晶性ポリエステルポリオールと、

40 以上の融点を有する第 2 結晶性ポリエステルポリオールであって、5500 g/mol 未満の数平均分子量を有し、かつ、ジオールとポリカルボン酸から誘導された結晶性ポリエステルポリオール、および、500 g/mol から約 50,000 g/mol までの数平均分子量を有するポリカプロラクトンポリオールからなる群から選択される第 2 結晶性ポリエステルポリオールと、

ポリエーテルポリオールと、

25 以下の融点を有する第 3 ポリエステルポリオールと、
ポリイソシアネートと

の反応生成物を含む、請求項 1 に記載の電子装置。

【請求項 4】

前記第 1 基材は、約 30 分間にわたり少なくとも 60 から 100 以下の温度で前記装置を調整した後、前記第 1 基材と前記第 2 基材の少なくとも 1 つを損傷させることなく、前記第 2 基材から分離可能である、請求項 1 に記載の電子装置。

【請求項 5】

前記第 1 基材を前記第 2 基材から分離した後、前記第 2 基材上に存在する前記硬化した接着剤組成物の残留物を全て、前記第 2 基材から完全に除去可能である、請求項 4 に記載の電子装置。

【請求項 6】

前記硬化した接着剤組成物は、少なくとも 4 の剥離度を示す、請求項 1 に記載の電子装置。

【請求項 7】

前記第 1 基材は、72 時間にわたり 85 、および、相対湿度 85 % で前記装置を調整し、前記装置を室温まで冷却した後、前記第 2 基材と恒久的に結合したままである、請求項 1 に記載の電子装置。

【請求項 8】

約 30 分間にわたり、少なくとも 60 から 100 以下までの温度で物品を調整するステップであって、前記物品は、

第 1 基材と、

第 2 基材と、

硬化した湿気硬化型ポリウレタンホットメルト接着剤組成物と

を含み、前記第 1 基材は、前記硬化した接着剤組成物により前記第 2 基材に結合するステップと、

前記第 1 基材と前記第 2 基材の少なくとも 1 つを損傷させることなく、前記第 1 基材を前記第 2 基材から分離させるステップと

前記第 1 基材から前記接着剤組成物を完全に除去するステップと
を含む、物品をリワークする方法。

【請求項 9】

前記分離させるステップは、人により実施され、前記第 1 基材の少なくとも一部を第 1 の手で把持するステップと、前記第 2 基材の少なくとも一部を第 2 の手で把持するステップと、前記 2 枚の基材を互いに引き離すステップとを含む、請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】

前記方法は、前記 2 枚の基材を分離した後、剥離力を使って、前記接着剤組成物を前記第 1 基材から完全に除去するステップを更に含む、請求項 8 に記載の方法。

【請求項 11】

40 以上の融点、120 以下の軟化点、および、少なくとも 5500 g/mol から 20,000 g/mol 以下までの数平均分子量を有する第 1 結晶性ポリエステルポリ

オールと、

40 以上の融点、95 以下の軟化点、および、約500 g/molから約50,000 g/molまでの数平均分子量を有する第2結晶性ポリエステルポリオールであって、前記第1結晶性ポリエステルポリオールとは異なる第2結晶性ポリエステルポリオールと、

40 以下の融点を有する第3ポリエステルポリオールと、
ポリエーテルポリオールと、
ポリイソシアネートと

の反応生成物を含むポリウレタンプレポリマーを含む湿気硬化型ポリウレタン接着剤組成物であって、

前記接着剤組成物は、少なくとも5 MPaの25 破断応力、および、1 MPa以下の80 破断応力を示し、80 破断応力試験法に準拠する1分以内の試験中に、ポリカーボネート基材から完全に除去できる、湿気硬化型ポリウレタン接着剤組成物。

【請求項12】

前記ポリウレタンプレポリマーは、

1重量%から60重量%の前記第1結晶性ポリエステルポリオールと、
1重量%から40重量%の前記第2結晶性ポリエステルポリオールと、
10重量%から60重量%の前記第3ポリエステルポリオールと

の反応生成物を含む、請求項11に記載の湿気硬化型ポリウレタン接着剤組成物。

【請求項13】

第1基材と、

第2基材と、

硬化した接着剤組成物と

を含む物品であって、前記第1基材は、前記硬化した接着剤組成物により前記第2基材に結合し、前記硬化した接着剤組成物は、

少なくとも5500 g/molから20,000 g/molまでの数平均分子量、40以上の融点、および、120 以下の軟化点を有する第1結晶性ポリエステルポリオールと、

40 以上の融点、95 以下の軟化点、および、約500 g/molから約50,000 g/molまでの数平均分子量を有する第2結晶性ポリエステルポリオールであって、前記第1結晶性ポリエステルポリオールとは異なる第2結晶性ポリエステルポリオールと、

ポリイソシアネートと

の反応生成物を含むポリウレタンプレポリマーから誘導され、

前記接着剤組成物は、約30分間にわたり少なくとも60 から100 以下までの温度で前記物品を調整した後、溶剤の使用、または、研磨作用なしに前記第1基材と前記第2基材の少なくとも1つから完全に除去可能であり、

前記硬化した接着剤組成物は、少なくとも5 MPaの25 破断応力、および、1 MPa以下の80 破断応力を示す、物品。